



コード分析ツール

コード分析作業を行うと既存のニーズに **WPS** がどのくらい適しているかを即席で示すことができます。**WPS** にはこの作業に適したツールがあります。

WPS コード分析ツールは既存の全てのスクリプト（**SAS** 言語によって書かれたプログラム）をチェックすることができ、これらのスクリプトを実際に実行する必要はありません。ステップは一度で数分しかかからず、数百万行のコードがある数千のスクリプトをこの分析ツールで精査することができます。

コード分析の結果はスクリプトの内容の詳細や目的は明らかにしません。どの言語アイテムをスクリプトが使用しそれらの言語アイテムが **WPS** によってまだサポートされていないかをこの結果は単純に一覧にします。これは既存のニーズに対してサポートされていない言語アイテムがどのくらい影響を与えるのか、また影響を受ける既存のスクリプトがいくつあるのかを知ること役に立ちます。

コード分析では間違っているシンタックスもしくは未知の言語要素についてはレポートしません。



コード分析レポート

コード分析ではレポートが作成され自動的にスクリーンに表示されます。レポートの最初のページに「**Excel** へエクスポート」というオプションがあります。このオプションを選択し、結果をファイルへ保存してください。**Microsoft Excel** では最初のスクリーン上のレポートと多少異なる結果が表示されます。**Excel** 版のコード分析結果の方が、より使い勝手が良く簡単に読めることにお気づき頂けるかと思います。

一度に一つのスクリプトを分析するもしくはスクリプトの小さなグループを分析するだけでも興味深いかも知れませんが、当社では、全部署の全ユーザーの既存のスクリプトを出来るだけ一つの分析ステップで分析して、コード分析レポートを作成することを強くお勧めいたします。関連するスクリプトは異なるサブフォルダーに入っている場合があり、コード分析は一度でその親フォルダーに対して行うことができます。結果のコード分析レポートが **Excel** にエクスポートされたとき親フォルダーとサブフォルダー内の全スクリプトの概要が提供されます。このレポートはまた一つのスクリプトもしくは関連するスクリプトの必要事項についての情報を提供することも可能です。



コード分析ツールを 取得するには

コード分析の機能は **WPS ワークベンチ GUI** に内蔵されているツールとしてのみ使用できます。この **GUI** は現在のところメインフレーム **z/OS** 以外の全てに対応しています。

コード分析ツールは異なるプラットフォーム上で通常実行しているジョブを分析することができます。例えば、**WPS**（とコード分析ツール）が **PC** にインストールされていると、通常は **UNIX** もしくはメインフレーム **z/OS** システム上で実行しているジョブやスクリプトでも分析することができます。単純に、異なる環境から全てのジョブを一まとめにし、それらを **PC** 上へコピーしてからその **PC** 上の分析ツールを実行してください。

WPS ワークベンチ GUI と内蔵されているコード分析ツールにアクセスするために、**WPS** のフリートライアル版を取得することができます。**WPS** のフリートライアル版を得るには <http://www.worldprogramming.com/tryorbuy/evaluations> にあるオンライン評価版リクエストをご利用ください。



メインフレーム z/OS ユーザーの方

コード分析ツールは、現在メインフレーム **z/OS** 上では実行できません。コード分析の実行にはメインフレームのジョブを **Windows** へコピーする必要があります。

ジョブの行番号をまず削除してください。次にメインフレーム上のジョブを **XMIT** でパッキングし、**PC** 用の **XMIT Manager** で解凍します。**XMIT Manager** は **PDSE**（拡張された **PDS**）のものではなく **PDS** のものだけを取り扱う点にご注意ください。

メインフレームから **PC** へ **Xmit** ファイルをダウンロードするとき、**ASCII** と **EBCDIC** の変換や切り捨てもしくは **CRLF** の変換は無しで、**80** の **LRECL** で **FB**（ブロック化、固定長）を使用する必要があります。

必要であればプログラムコードを一つのシーケンシャルデータセットへ結合できます。しかし、**PC** 上でコード分析を行うとファイル全体に対して一つのレポートしか作成されません。これで良い場合もありますが、各 **PDS** メンバーのレポートが必要であれば、別々のシーケンシャルファイルへのエクスポートが必要です。



コード分析ツールの使用

コード分析の実施中はデータを移動する必要はなく、データへのアクセスやスクリプトの実行についても考慮する必要はありません。単純に全てのプログラムを一まとめにし **WPS** をインストールしているコンピューターへコピーしてください。

「スクリプト」（**SAS** 言語で記述されたプログラム）をコード分析ツールがアクセスできる場所へ配置するには、**WPS** ワークベンチ **GUI** について特定の基本事項を知る必要があります。**WPS** のグラフィックユーザーインターフェイスは「**WPS** ワークベンチ」と呼ばれています。ワークベンチはスクリプトの格納に「プロジェクト」という概念を使用します。基本的にプロジェクトは「ワークスペース」という親フォルダー内でグループ化されるフォルダーです。ワークスペースとプロジェクトフォルダーの作成には **WPS** ワークベンチを使用します。プロジェクトフォルダーが一つあれば、全てのスクリプトを直下にコピーするか、またはサブフォルダーを手動でコピーもしくは作成して、別々のグループでスクリプトの整理や管理ができます。既存のスクリプトがプロジェクトフォルダーへコピーされると、**WPS** 内で必要に応じて分析や実行、編集を行えます。

「**WPS** ワークベンチユーザーガイド」（**WPS** ワークベンチのメニューで ヘルプ > ヘルプ目次から開ける）は前述の内容についての詳細情報やヘルプの取得に適しています。



ドキュメンテーション

上記「**WPS** ワークベンチユーザーガイド」は当社ウェブサイトの

<http://www.worldprogramming.com/support/docs/wps> からご利用頂けます。